

◆司会

それではただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

わかりました。まず、冒頭に今月2日からワクチンの接種の予約受付を一時的に停止を余儀なくされましたことについておわびいたします。停止した6月2日、3日は日中、各区役所において、多くの市民の皆さんがウェブ予約の支援窓口にお越しいただいたにもかかわらず、予約いただけずにお帰りになってしまった。予約申し込みをお待ちの皆さんに大変ご迷惑を掛けたこと、おわびを申し上げます。申し訳ありませんでした。走りながら考えておりますけれども、このことを苦い教訓として大きな目標、今後、7月中に65歳以上の市民の皆さんにワクチンの接種完了をしていくということに向けて、さまざまな見直し、改善を図ってまいりたいと思います。そこで、数字、エビデンスに基づいて、また我慢の生活を強いられている市民の心の動き、感情も踏まえて、希望的な観測、願望ではなくて、リアリティを持った改善を図っていくことが肝要だと私は理解しています。そこで、現在75歳以上の方々のうち、予約をお待ちの皆さんは、今月2日時点で最大で2万7,900人ほどいらっしゃる想定しています。まずはこの市民の皆さんの接種の予約枠を確実に確保した上で、今月14日から予約受付を再開したいと考えております。次に続く65歳から74歳の皆さんについては見直しを図ります。当初は6月11日に接種券を発送する予定でしたが、75歳以上の皆さんと重複する、予約をお待ちになっている方々を優先するため、混乱を避けるため、65歳から74歳の皆さんには今月16日の発送とすることにいたしました。ただし、ワクチンの量は確保しておりますので、その方々にも先ほど申し上げました通り、来月中の普通の接種は終わることができるということを申し添えたいと思います。

それでは今日の話に移ります。新型コロナウイルス感染症対策の中での補正予算概要であります。すでに記者レクは終わっておりますけれども、私からこの概要について改めて報告いたします。先月21日に開催いたしました感染症対策本部会議において示した方針に基づき、静岡市の「Life (いのち)」と「Life (くらし)」、二つのLifeを守るという大きな方針を今後も堅持した上で施策を講じていくという考え方の下、補正予算を編成いたしました。今回の補正予算では新型コロナウイルス感染症対策として、約53億7,000万円を計上いたしました。お手元の「新型コロナウイルス感染症対策について」と題したA4、カラーの横紙をご覧ください。まずは“いのち”を守る、感染拡大防止のための施策です。大きく二つあります。一つ目はワクチン接種の加速化に尽きます。新しい試みとして20日から集団接種の会場を増設いたします。

現実的で予定をしている旧静岡マルイとホテルグランヒルズ静岡の二つの会場に加えて、さらに1カ所増設するという前提で、現在調整中です。これによって今月20日から7月末までの間、10万7,000人分の接種枠を準備できます。このことによって当初の大きな目標の65歳以上の市民の皆さんの接種完了が可能となります。感染拡大防止の二つ目は、飲食店を中心とした事業者等の感染対応レベルの向上と促進であります。県が「ふじのくに安全・安心認証制度」を作りましたので、この認定を受けた飲食店に対して、静岡市では1店舗当たり5万円を支給いたします。そのことによって、今まで「“今川さん”のステッカーの店は安心だよ」というアピールしたわけでありませけれども、こちらのほうに移行させていく。そのことによって市民の皆さんが安心して利用できる飲食店を増やしていきたいと思っています。対象となるのはおよそ4,000店舗あります。目標としてはそのうちの約4割、1,600店舗が8月末までに申請をした上で認証取得していただくことを期待しています。

一方、地域経済の活性化、この資料、オレンジの部分でありますけれども、「Life（くらし）」、地域経済活性化のための施策も大事です。こちら大きく四つあります。まず一つ目は消費拡大のための商店街などの団体に対する支援です。これは昨年度実施し、28の団体、およそ1,100店舗が参加するなど、非常に好評だったクーポン券の発行経費を支援する事業の第2弾と位置付けました。事前にヒアリングしてみたところ、昨年度参加の団体に加えて新しい団体からの参加希望もあったことから、当初の事業費を増額することにいたしました。二つ目は、これも昨年度実施し、およそ6,900店舗に参加していただき、非常に効果があったと検証しているモバイル決済サービスを活用したポイント還元キャンペーンの第2弾の位置付けであります。今回はコンビニも対象に加えることによって経済活動がより一層活発化することを期待しています。三つ目は観光消費の拡大のための施策です。域内ですね、マイクロツーリズムを推進して、地域を六つに分けた二つ以上のエリアに宿泊していただける、県民の皆さんへの特産品のプレゼントや市内周遊の割引サービスを実施していく計画です。夏休みになりますので、感染対策に気をつけて家族の思い出を作っていたいただきたいと思います。四つ目は雇用の確保のための再就職緊急サポート事業です。コロナ禍によって仕事を離れざるを得なかった方々など200名を対象に、研修やカウンセリング、職場実習などを通じて早期に再就職することを支援していきます。以上が、「Life（いのち）」と「Life（くらし）」、二つのLifeを守るための補正予算案の概要です。

続いて感染症対策以外の主な事業について説明します。まずは清水駅東口周辺整備関連事業です。昨年12月の桜ヶ丘病院の移転に関する基本協定に基づき、これまで協議を進めてまいりました。令和3年度中の新しい病院の建設着工、令和5年度中の開院を目指し、土地の等価交換に掛かる取り扱いについてJCHOと本市と一定の合意がなされました。建設予定地である清水駅東口公園の分筆登記や、公園施設の撤去、移設などを実施し、土地交換に向けた準備を進めてまいります。その他、現在の最終処分場、これ

が令和7年度末をもって埋め立てが完了する見込みです。そこで新たな最終処分場整備のための地質調査や実施設計を進め、令和8年度の供用開始を目指してまいります。以上、補正予算の規模は一般会計のみで総額約51億8,800万円の増額となり、令和3年度の予算額の累計は一般会計がおよそ3,353億円、特別会計ならびに企業会計を合わせた総額では6,608億円となりました。私からは以上です。よろしくお願いいたします。

◆司会

それでは幹事社質問も本日はワクチン関係とお聞きしておりますので、先に幹事社質問をお願いいたします。

◆読売新聞

幹事社読売です。よろしくお願いいたします。余剰ワクチンについて、廃棄を減らすための対策について教えてください。

◆市長

これも5月の26日、27日で19件のワクチンを廃棄する事態になってしまいました。その教訓を生かして、それ以降、集団接種会場において余剰となったワクチンが70件ありましたけれども、廃棄させないという改善策として、会場にいる医療従事者や運営スタッフでまだ接種していない方、あるいは、リストを作りましたので、リストに載っている保健師さんや保育士さんに接種をすることを徹底した結果、昨日まで廃棄は0件であります。引き続き、余剰ワクチンの接種対象者を拡充して、貴重なワクチンを廃棄する事態にならないように全力を尽くしてまいります。

◆読売新聞

ありがとうございます。

◆司会

それでは、ただ今の発表につきまして皆さまからのご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。NHKさん、よろしくお願いいたします。

◆NHK

NHKです。まず、今、ワクチン予約のシステムが停止になっていることについて、聞き間違いだったらごめんなさい。先ほど市長、今月14日から予約受付再開したいとおっしゃいましたが、システム上、今、12日と表示されていますけれど、どちらでしょうか。

◆市長

14日ですね。

◆NHK

今、ワクチン接種予約支援サイトを見ると12日再開とありますけれど、どちらでしょうか。

◆市長

12日ってどこの文章ですか。

◆NHK

静岡市新型コロナワクチン接種予約支援サイトに再開時期6月12日頃と。

◆司会

それでは補足をさせていただきます。

◆保健所統括監

保健所統括監の松田と申します。今の時点で予定につきましては6月14日再開を予定しています。

◆NHK

では、ホームページに今、12日と出ているのは、これはどういうことでしょうか。

◆保健所統括監

そちらのほうはこれから修正させていただきたいと思います。

◆NHK

ちなみに後ろ倒しになった理由は。

◆保健所統括監

枠をしっかりと確保した上で次の予約を再開しないと、当然また混乱が起きますので、先ほど市長のほうから申し上げたとおり、大規模集団接種会場、集団接種会場の増設、こちらのほうで予約の枠を新たに確保しますので、その予約の開始時期を想定して6月14日ということで再開したいと思います。

◆NHK

では6月14日にはマルイとグランヒルズの大規模接種会場の予約も同時に受け付けられるということでしょうか。

◆保健所統括監

そういう予定でございます。

◆NHK

分かりました。それと、あともう1カ所検討されているということですが、そこについても14日から予約開始でしょうか。

◆保健所統括監

その予定で調整させていただきたいと思います。

◆NHK

すると、14日からはトータルで何人分の予約が可能になるということでしょうか。

◆保健所統括監

既存の会場も含めて10万7,100人。先ほどの資料のところでございますけれど、そちらの枠を確保するというところで進めてまいります。

◆NHK

分かりました。ちなみにあと1カ所の大規模接種会場は清水区ということになるのでしょうか。

◆市長

検討中です。

◆NHK

駿河区、葵区の駅周辺に2カ所が集中するわけですが、あと1カ所は。

◆市長

とにかく早急に場所を確保しなければいけませんので、その観点から検討していきたいと思います。

◆NHK

そして、医師会の先生方の間では、また殺到して混乱が起きないように、ある程度、年齢区分を分けて再開するべきだというご意見もあるようですが、その点についてのご対応はいかがでしょうか。

◆保健所統括監

今回、まずは今お待ちの75歳以上の方に先に予約を入れていただくというところで、それからあまり時間を空けずに、あるいは、日数を空けずにその下の65歳以上74歳以下の方について接種券を発送し、順次予約を入れていただく予定になっています。

◆NHK

では、医師会の方の間で意見がある75歳以上の一括予約の是非については、そこは一括でやるということですね。

◆保健所統括監

75歳につきましてはもう接種券がお手元に届いておりますので、今回、新たに送付させていただくのは65歳から74歳の方という形になります。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。予約を14日に再開したときに、また、たくさんの方が申し込みをなさると、ウェブがつながりにくかった、パンクしたり、コールセンターがつながりにくかったりということも想定されると思うのですが、そのあたりの改善策というか、あるいは発送、65歳から74歳のところ、発送を少し遅らせるということですが、そのへんも含めて、改善策というか考えていることはありますでしょうか。

◆市長

今朝の御紙の1面の記事のとおり、このシステムはJTBに委託をさせていただいております。しかし、こういう事態を招いてしまったということで、JTBのほうと目下協議して、システム自体を他の企業にJTBを通して変えると、もっとより良いシステムを供給してくれる、そういうところに変えていくということも、今、改善策として検討

課題となっています。

◆司会

NHKさん、お願いします。

◆NHK

たびたびすいません。システムの改修ですが、そもそも医師会の先生方の間ではJTBのシステムについて非常に不満の声が強いわけですが、どうしてそもそもJTBに発注するに至ったのかと、旅行会社が悪いということではないのですが、成果物としていかなものかというご意見は多々出ているのはご承知かと思います。それを他の企業に変えるのであれば、結局、JTBに何か問題があったというご認識なのでしょうか。

◆市長

それは私が最高責任者ですので、監督不行届きだったと思います。

◆NHK

JTBにスパイラルの改修をお願いしないということは、JTBでは対応が期待できないということでしょうか。

◆市長

JTBが委託を受けた後に選んだシステム会社が今のインタフェースを作っていて、医師会の皆さんから批判を招いたということでもあります。ですので、これ、公民連携でありますので、イコールパートナーとして、JTBとして、今、記者がご指摘の問題点、課題をわれわれと共有した上で、じゃあ、どのシステムだったら大丈夫なのかということをお早急に今、検討しているところであります。

◆NHK

お尋ねとお答えがかみ合わなかったのですけれども、通常であればJTBが作ったシステムは、JTBに改修させるのがシステムの中身を熟知しているわけですので、筋からしても、また、他の企業に移したら余計お金がかかってしまうんじゃないか、余計手間がかかってしまうんじゃないかという心配があるわけですが、それをあえて企業を変えるというのは、JTBに対応を依頼しては改善が見込めないと判断されたということなのでしょうか。

◆市長

そうではありません。JTBが受けていますので、JTBと静岡市が協議してJTBが

ら別のシステム会社にまた委託するという事です。JTBを通してです。

◆司会

少し補足をさせていただきます。

◆保健所統括監

保健所統括監の松田です。今回、JTBのほうにはシステムがいろいろ使いづらいという点がございませう。それは医師会の皆さんからもさまざまな意見をいただいておりますし、行政側としてもなかなか管理するのに、非常に日々のデータを取るということもなかなか難しい部分もございませうので、そういう意味でJTBさんには今のシステムを改修するか、あるいは新しいシステムの導入を提案してくれというところで協議を進めているところでございませう。この話は、先ほど申し上げました6月14日の再開の話とは直接リンクしておりませうので、もう少しシステムの入替えそのものは時間がかかりますので、これはもう少し先の話ということになります。ただ、ワクチンが今の予定でも64歳以下で最終2月末、あるいはもう少し前倒しが可能かもしれませんが、その間、このシステムを使うということになりますので、その間、使うには非常に使いづらいシステムということですので、入替えにつきましてJTBを通じて話を進めさせていただいているという状況にあります。それから新しい集団接種会場、先ほどマルイ、あるいはグランヒルズという話が出ていますが、こちらにつきましては別の業者、別のシステムを採用する予定でございませう。以上です。

◆NHK

ごめんなさい。6月14日に再開するときには大規模接種会場も一緒に予約を受け付けるけれども、大規模接種会場のシステムが別というのは入り口が市民にとっては分かれるということですか。

◆市長

記者、整理をしてくださいね。まず集団接種、従来のところはJTBに委託しました、そして、システムの改善を今、お願いしています。協議中です。しかし、JTBもいっぱいいいですね。ですので、新たに、今日、発表した大規模接種場、これ2カ所になるか、3カ所になるか、ここは市から他のシステム会社のほうに委託するという事でJTBとも合意しております。

◆NHK

従来からの個別接種、集団接種については今のシステムでいくわけですね。



◆保健所統括監

当面は現在のシステムを使う予定でございます。

◆NHK

つまり市民にとっては、どっちで予約するか使い分けなくてはいけない期間が生じるということですか。

◆保健所統括監

新しい集団接種会場を希望される方はそちらのほうの予約システムに飛ぶような形で、入り口の段階で二つにルートが分かれるような形でご案内させていただこうと思っております。

◆NHK

複雑さが増すような印象は受けますが、これを整備するお金、国の交付金が財源なのかもしれませんが、予算が余計にかかる心配はないのでしょうか。

◆保健所統括監

大規模接種会場のそういった経費につきましては、今回の補正予算の中で見積もらさせて、計上させていただいているところです。

◆NHK

違います。システムを2本走らせることについて。

◆市長

これまでざっくり国の方針を示してくれているので、私たちもそれを信頼してやっていますけれども、大規模接種会場そのものが7月中に65歳を終えてほしいという強い国の要請に基づいて、今、各自治体が悪戦苦闘しております。当然そこで改修も含めてかかった増額分は、国が何らかの形で交付してくれるものと期待しています。

◆NHK

財源が国にしろ、お金が余計にかかる話になってしまうことは、これは避けられないわけですね。システムの点で。

◆市長

財政局長にここのところは少し、今後の見込みについて答えていただこうと思いますが、ただ、国からどのくらいの、ただ、これは国が補填するから7月中にやってくれという

大きな枠組みですので、そのこのところ、少し現在の実務的な状況について財政局長、お願いいたします。

◆財政局長

財政局長の大石です。記者から質問があったシステム改修については、まず、予算上2カ所の接種会場のシステムについては、先ほどの元々のものとは別に作るということで、今回、この8億8,000万円の中に含まれております。そちらは予算措置済みです。今のシステムを改修するという予算も若干は含まれておりますが、どの程度かかるのかまだはっきりしておりません。そこにつきましては、今回、計上させていただきました40億円の中で済むのか、今後、必要になってくるのか、また検討していきたいと思いますが、過不足が他でも出てくると思いますので、全体の中で調整していきたいというふうに思っております。以上です。

◆NHK

JTBさんに恨みがあるわけではないのですけれども、現実には医師会の先生方から、「JTBに発注した経緯も含めて一体なんだったんだ」という疑問の声が出ているわけです。実際に改修せざるを得ないような不備があったシステムを作りながら、JTBさんは特に「その分、責任持って費用はこちらで持ちます」というようなことではなく、ただ当初の予定通りのシステム構築費用を受け取るということになるのでしょうか。

◆市長

そのあたりも含めて私自身が1度きちんとJTBの責任者とお会いして、問題を共有して進めていきたいと思っています。

◆NHK

それは場合によってはシステム改修費のある程度JTBにも負担してもらうということも協議されるということですか。

◆市長

あるかもしれませんね。でも、今あっちだ、こっちだと対立しているときではありません。運命共同体であります。公民連携で始まったことでもあります。できると思って委託した会社ですので、そのこのところは同じ方向を向いて前向きに解決していきたいというふうに思っています。

◆NHK

分かりました。じゃあ、お金がどうなるかは、また、おいおい伺います。あと、もうひ

とつ、市長、発表項目ですので、予算について桜ヶ丘病院移転先である清水駅東口公園の整備費が含まれますが、これで予算上も病院移転が進むということだと思えますけれども、依然として反対意見が根強い、厚労省にも反対される方が要望に行かれると聞いておりますが、そういった中でこの事業も予算を付けて進めるところについてお考えをお聞かせください。

◆市長

これは再三申し上げている通りでありますけれども、粛々、着々とJCHOさんと実務的な協議を進めておりますので、この方向性で私たちは2年後の開院を目指し、清水区全体の医療体制の充実、清水区民の皆さんの医療に対する安心感を確保していきたいと思っています。

◆NHK

市長、前回の会見でしたか、知事選についてのコメントの中で、聞く耳を持つことが大事だということを強調されていた中で、市長、一昨年から反対されている方々からの面会要望に関して、応じない姿勢で今日まで至っておりますけれども、知事に対しては聞く耳を持つことが大事とおっしゃる一方で、ご自身が反対派の方のご意見を直接お聞きにならない、このことについて整合性をどう考えているかお聞かせください。

◆市長

聞く耳を持っている心構えが必要だと思います。度重なる質問書に対して私たちはオール静岡市役所で誠実な回答を先方に送っております。私たちは納得していただきたいのと、本当に誠実に細かな質問にも、私も含めて、保健福祉長寿局も含めて、このような回答でお返ししようということできやりとりしております。

◆NHK

それは3月の静岡市議選で、この問題に反対されている創生静岡が議席を倍増させたことを踏まえても、市民はこれで理解してほしいというのが市長のスタンスだということでしょうか。

◆市長

細かく分析しますと創生静岡が増えたということは、これだけのイシューではないということをお共有してもらいたいと思います。若い議員も駿河区のほうで、葵区のほうで頑張ってお選されて、創生静岡入りしました。そんな大きな事情があるということで、ぜひご理解いただきたいと思います。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

先に読売新聞さん、お願いします。

◆読売新聞

読売新聞です。よろしく申し上げます。2日からの予約停止について2、3点お尋ねしたいことがあります。まず、予約申し込みに対して、枠が足りなくなってしまったということですが、足りなくなった枠というのは具体的には場所のこと、打ち手のこと、ワクチンのこと、いずれになるのでしょうか。

◆市長

ワクチンの量は確保しておりますので、実務的にこれは。

◆司会

補足させていただきます。少しお待ちください。

◆保健所統括監

保健所統括監の松田です。予約の枠が足りなくなったというその結果として、予約システムが今、ストップしているような状況になっております。これは85歳以上の方、それから続いて75歳以上の方に順次接種券を送らせていただいたのですが、85歳以上の方に送った時には十分な枠がございました。ただ、思ったより枠が埋まってこなかったという事情がございます。そういうことがありまして、75歳から84歳の方の接種券を前倒しして送らせていただいたのですが、実際には、その方たちが全て接種を希望されるというだけの枠を十分確保できておりませんでしたので、そこに加えて75歳以上の方の接種の予約率が、予約のスピードが想定以上に早かったということがございまして、今回、予約枠のほうが終わってしまったということでございます。

◆読売新聞

要因について分かりました。ありがとうございました。この枠というのは、じゃあ場所と打ち手ということですか、足りていないのは。

◆保健所統括監

要は個別の接種会場、いわゆるクリニックさんの所で1日に何人打てるかという枠を設定させていただきます。それを積み上げて、なおかつ、市のほうで運営します集団接種

会場、こちらのほうに続きましても、打ち手の先生、ドクター、それから看護師さん、そういったスタッフを集めて1日に何人接種できるかというような数字がございますので、それらを両方足した数字で1日の予約枠を確保してございます。

◆読売新聞

分かりました。二つ目で、始めた時には「十分な枠が確保しているから焦らないで大丈夫です」という、そういった呼び掛けされて85歳以上については始めたと思います。それで、今回予約に対しての申し込みに対して、確保していた枠が足りなくなってしまったということについては、こちらはということなのかということについてお願いします。

◆市長

総じていうと、定量的には理論上これで大丈夫だというふうに想定して、私どももこれで決裁したわけですがけれども、実際上の市民の皆さんの心理状況、いわゆる定性的な部分で私たちの見込みが甘かったということ、それがこういう事態を招いてしまったということなのです。

◆読売新聞

分かりました。最後に、今後、再開してから市民が予約しようというときに、また各予約に対して枠の確保がこういったふうに足りなくなるということもあり得るのか、それとも、確保した分だけしか予約の申し込み接種券を送らないとか、そういった調整をされるのかをお願いします。

◆市長

先ほどの答弁が一つの検証ですので、それを踏まえて、そのあたりも、今、本当に1日でも早く打ちたいというような気持ちが強いですね。いくら「7月中には打てますよ」と呼び掛けても、75歳以上の方はそういう心理状況にあるということ、これから85歳の方々も、まだ打ってない方々もそういうコロナ禍でなんとかして支援をもらって打つということで、そこの残された方々も加速化してくかもしれない、そんなことも全て想定した上で、じゃあ、接種券をいつ頃、ただ、なんとかまたできるのかということは今、検討中で、先ほど私が申し上げたことも、そういうことを踏まえてお伝えさせていただきました。非常に心理も読まなければいけないということですので、コントロールするのは非常に難しいのですけれども、でも全力を尽くしてまいります。

◆読売新聞

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

たびたびすいません。今の関連で多分 65 歳から 74 歳の方も 9 万 9,000 人と一番今までの区分でも人口が多くて、予約を、ワクチンを打ちたいという方も相当多いと思うのですが、打ち手の確保という観点では課題はないというか、大丈夫、問題はないのでしょうか。

◆市長

まず、打ち手が全国自治体共通の最大のハードル、課題であります。静岡市もそうです。ただ、先ほどの大枠に際して、そこのところを補足すると、まず、違う企業さんに大規模接種 2 カ所を、今、お願いしています。そこはシステムのみならず打ち手の確保も合わせて、やっていただけるということになっております。これは前回の記者会見で申し上げましたとおり、市外にいらっしゃるお医者さんも含めて募集をかけて確保することです。ただ、今後、プラスアルファでまた 3 カ所目を作らなければいけません。そこは医師会の皆さんと協議して、幸い、福地会長は「日曜日も打つよ」というふうに私におっしゃってくれています。迷惑を掛けたにも関わらずそういう前向きな姿勢は持ってくれています。それは会長だけではなくて、執行部の方々共通の思いだということです。第 3 の会場のほうについては、また、医師会の皆さんに協力をお願いするということになるかと思えますし、医師会でまかなえなかったら、次どこをお願いするのかということを検討していくつもりです。

◆静岡新聞

あと、改めてなんですが、7 月中に完了させるという目標は達成できるというお考えでしょうか。

◆市長

まだ諦めていません。全力を尽くします。何か局長からそのあたりのところ、私の発言を補足できればお願いいたします。

◆司会

少しお待ちください。

◆保健福祉長寿局長

局長の杉山でございます。7月末までに希望される方が接種できるよう全力で取り組んでいく所存で頑張ります。

◆司会

その他いかがでしょうか。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

すいません。SBSです。先ほどの質問の答えの中で市長、見込みが甘かったというふうにお話がありましたけれども、実際、これだけ直接市役所に来て帰っていく方の姿も私も拝見させていただいていますけれども、予想ってどういうふうな想定をしていたのか、それにどう応えられなかったのか、もし、市長の思いがありましたら教えていただけますでしょうか。

◆市長

まずもって私も、多くの市民の皆さんにせつかくご足労いただいたのに目的を達成できなかったことを深くおわび申し上げます。その上で今の質問でありますけれども、先ほど読売さんの質問に答えた通り、読みが甘かったということは反省しなければなりません。

◆司会

テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。ワクチン接種について確認ですが、6月14日の予約再開の予定ということですが、これはいつからの枠が予約可能になるのか、多分、個別、集団接種、既存のやつと大規模接種会場で分かれるのかなと思うのですが、

◆保健所統括監

保健所統括監の松田です。6月14日の枠のスタートは7月5日からの週になります。

◆テレビ静岡

6月14日で大規模接種会場の予約も可能になるということですか。

◆保健所統括監

そうですね。大規模接種会場については6月20日の日曜日が初日という形で枠を空けていきます。

◆テレビ静岡

あともう1点。先ほど大規模接種会場については打ち手の確保も含めて委託しているということですが、この委託先については、打ち手の確保は6月20日から間に合っていますよというような話になっているのでしょうか。

◆保健所統括監

6月20日からの集団接種会場の増設につきましては、静岡市の医師会さんの協力もいただきますし、あるいは現在、集団接種会場で従事者を出していただいています。市内の総合病院さんのご協力もいただきながら、足りない分につきましては、業者さんのほうで手配していただくドクターと従事者を充てる予定でございますので、今、その調整をしているところでございます。

◆テレビ静岡

今、現状で7月末までの目標を見越すと、そこまでに何割くらいの医師の、医療従事者の方が確保できていて、またどのくらい委託しなければいけないのか、そのへんの見込み数字みたいなものはありますか。

◆保健所統括監

そこは現在調整中でございます。

◆テレビ静岡

例えば半分くらいなのか。なんとなくのざっくりした感じでもいいのですけれど。

◆保健所統括監

ごめんなさい。今そういった根拠を持ってお答えはできませんが、各病院さんのご協力、それからフリーのドクター、医師の方のご協力で足りない分につきましては、そういった外部の先生、ドクターを連れてきていただけるということは、そこは業者さんのほうとは話がついているところでございます。

◆テレビ静岡

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他、中日新聞さん、お願いいたします。



◆中日新聞

中日新聞です。桜ヶ丘病院のほうで質問なのですが、JCHOさんと結んだ協定の中で、医師確保に対して支援するという内容もあったと思うのですが、協定の中で1カ月あたりに20日程度の内科緊急輪番を担うために必要な内科常勤5名以上が常に配置されるように医師確保を支援とあったと思うのですが、医師確保の見通しというのは立っているのでしょうか。

◆市長

これも大事な質問ですので、後で実務的に局長に補足してもらいますけれども、おっしゃる通りであります。これも公民連携で桜ヶ丘病院とさまざまな大学に当たって、そのことを目指しておりました。私としてもいろいろなアシストの方法を考えながら、桜ヶ丘病院の医療体制が十全に開院を迎えるようにやっていきたいというふうに思っています。局長、お願いします。

◆保健衛生医療統括監

保健衛生医療統括監の長谷川です。ただ今の質問で医師確保はどの程度確保できる見通しかということですが、現在、桜ヶ丘病院と本市が共同といいますか、協力体制をもって大学病院等に訪問して医師確保に務めております。現在のところ、何人が確保できるということまでは申し上げられませんが、まだ具体的に結論までは至っておりませんが、現在、複数の病院に対して働きかけをしているところでございます。

◆市長

いい感触はもらっています。

◆中日新聞

いい感触というのは5名以上確保できそうな感触・・・

◆市長

そこまでは断定できませんけれども、大学病院のほうもきついですからね、今、現場はね。ただ、桜ヶ丘病院もミッションを持った新しい病院なんだという魅力を説明することも大事です。そういう流れの中で、なんとか先方から医師を送ってほしいというふうに考えております。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆市長

つまりこれも、「くれくれ」だけでは駄目なんですね。私たちのほうからこういう桜ヶ丘病院を作るんだというビジョンというかな、そういうことを示して行って、若い方が桜ヶ丘病院で勤務してまわりたい、勤務していきたいというふうに思ってもらえるような、そんなプレゼンテーションもしなければなりませんし、行政がそれをきちんと支えていくということも先方に伝えているところです。

◆司会

それでは 45 分となりましたので、以上で会見のほうを終了させていただきたいと思えます。本日はありがとうございました。次回は6月18日金曜日の予定となっております。よろしくお願いいたします。